

(様式2-2)

令和7年度「明日も行きたくなる学校づくりプロジェクト」事業 成果報告書

1 指定校・指定校群 (観音寺市立観音寺中学校)

2 実施の内容

① いじめ等のない安心して学べる学校づくり

- 「観中学生会カレンダー」作成による取組の重点化
生徒の自己有用感を高めることを目的とし、重点的な取組を行う生徒会常任委員会とその期間を「見える化」するため、毎月「観中学生会カレンダー」を作成し、教室等に掲示した上で、生徒も教職員もいっしょに活動し、成果を共有した。
- 各常任委員会の取組を統合した取組
観中学生会カレンダーによる取組の重点化に加え、7月には「夏だ！海だ！ポイ活だ！努力で景品ゲットだぜ」と称して、各常任委員会の取組を統合した取組を行った。取組内容は、各常任委員会の7月の目標と対策を1枚のシートにまとめ、生徒が達成できたら担任からポイントとしてシールをもらい、シートに貼っていく。貯めたポイントによってガチャを引くことができるというものである。
- 朝のあいさつ運動「Enjoy！あいさつWEEK」の取組
学期に1度、「Enjoy！あいさつWEEK」と銘打って、生徒会主催のあいさつ活動を行った。学級対抗や部活動対抗として、さわやかなあいさつができた生徒にシールを配り、そのシールの総数で勝敗を競う。取組をきっかけにしてあいさつの価値に気づき、普段の生活の中で、あいさつが自然にできる生徒が増加している。
- 「格好いい先輩」を演出する取組
観音寺中学校の生徒であることに誇りを持ち、校歌を通して愛校心を育むことを目的として、体育大会（5月）や合唱コンクール（10月）などの全校生徒が参加して実施する学校行事において、3年生から有志を募り、「校歌歌い隊」を結成して披露した。



図2 ポイ活シート

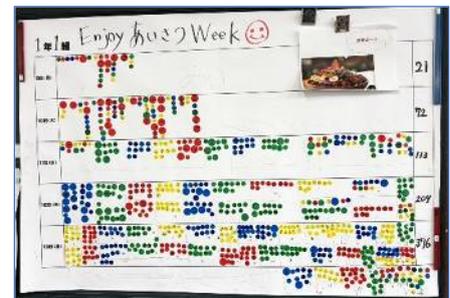


図3 Enjoy！あいさつWEEKの取組

② 心の小さなSOSの早期発見・早期対応

- 12月にSCと連携して3年生を対象にした「SOSの出し方についての授業」、および1年生を対象にした「アンガーマネジメントの授業」を行った。
- 2年生では総合的な学習の時間において、職場体験を核としたキャリア教育を実践しているが、本年度は事前学習として、マナー講座に加えてソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、適切な人間関係づくりの方法を学ばせた。

③ 児童生徒が不登校とならない、児童生徒にとって魅力ある学校づくり

- ・ 1学期に各学年1クラスで平日のタブレットの持ち帰りを試行し効果を検証した上で、2学期から全校生徒に広げた。生徒は毎日の健康観察、翌日の予定の確認のほか、A Iドリルや課題研究などに取り組んでいる。また、病気や不登校等で欠席が続く場合に、本人や保護者からの希望に応じて授業にオンラインで参加できるようにしている。
- ・ 11月に中堅教員を文部科学省指定の生成A Iパイロット校に派遣し、その後、校内研修を行った。各教科の授業におけるI C Tの活用を加速し、授業が生徒にとって魅力的なものになるよう改善を図っているところである。
- ・ 不登校傾向のある生徒の居場所を確保することを目的とし、S S Wと連携しながら校内サポートルームを運営している。生徒の状況によって市教育支援センターとも連携しながら、生徒の登校への意欲や教室復帰への意欲の喚起に努めている。

3 成果

(1) 児童生徒の自発的・主体的な活動の様子



図4 ポイントを貯めてガチャを引く生徒



図5 あいさつをしてシールをもらう生徒



図6 S S Tに取り組む生徒

(2) 総括

生徒アンケートでは、「自分の学級で楽しく過ごせている」という質問に対する肯定的回答の割合が、図7のグラフのように昨年度から増加している。また、図8の保護者アンケートにおいても、「子どもは、安心して学校生活を送っている」という質問に対する肯定的回答の割合が9割を超えている。

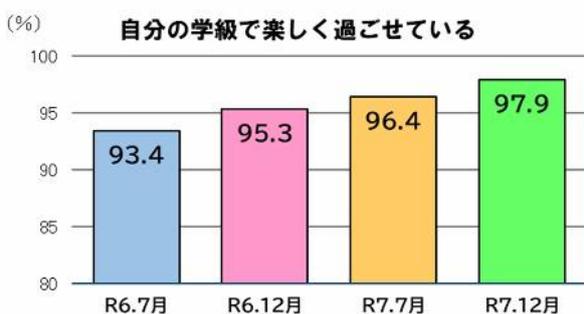


図7 生徒アンケート調査

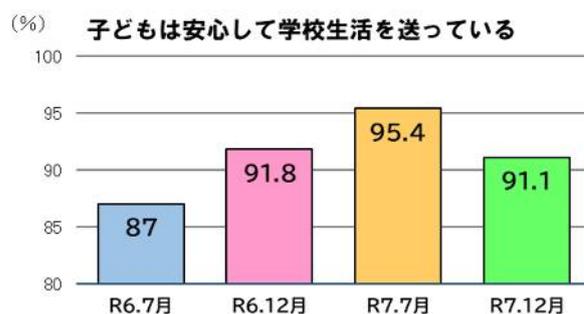


図8 保護者アンケート調査

また、同じ生徒の変容で見ると、「学校に行くのは楽しいですか。」という質問に対して、現3年生が昨年度の県学習状況調査では肯定的回答の割合が69.5%だったが、今年度の全国学力学習状況調査では81.2%と大きく伸びている。

以上のことから、学校で安心して生活できている生徒が増加しており、取組の成果がうかがわれるが、いじめの認知件数や暴力行為の発生件数にはまだまだ課題があるため、引き続き、全教職員の共通理解と共通行動、及び関係機関との強力な連携の下、生徒一人ひとりの心身の成長を支援しながら、明日も行きたくなる学校づくりをめざしたい。